

## おきょうづか 御経塚シンデン古墳群 こふんぐん

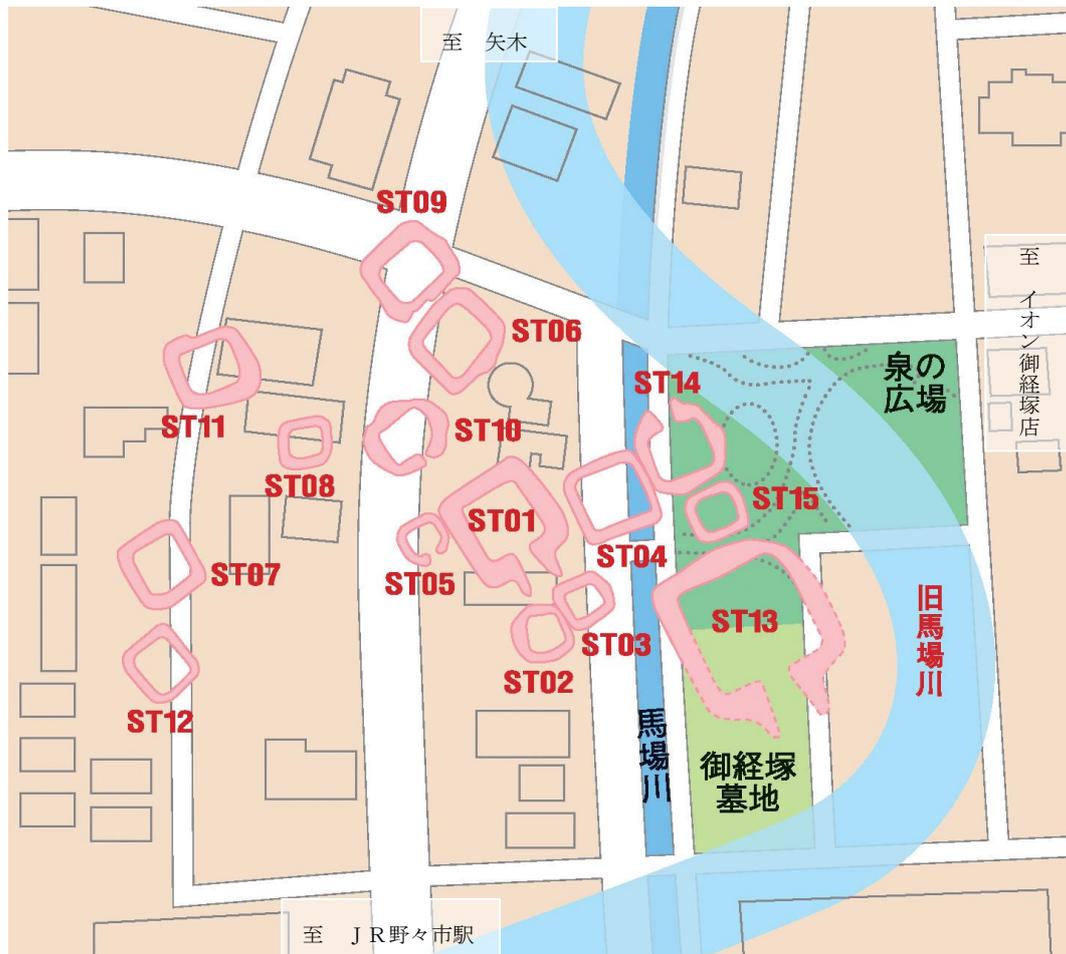
御経塚シンデン古墳群は1986～96年(昭和61～平成8)に行われた発掘調査によって発見されました。古墳の本体部分はずでに破壊されて残っていませんでしたが、周囲をめぐる溝が発見されたため、古墳の存在が分かりました。

発見された古墳群は古墳時代前期の3世紀終末から4世紀中頃に作られたもので、4基のぜんぼうこうほうふん前方後方墳と11基のほうふん方墳によって構成され、大きなものでは推定で全長約44mを測ります。

弥生時代以来の稲作の発展による集団の人口増加は、新たな居住地と耕地を求めることになって、土地をめぐる集団間の抗争をひき起こし、力の強い集団が一方を支配下におき、集団や人々に身分差の階層と政治的に統治する首長層を生み出しました。首長層の力のこじ誇示とその実権をヤマト政権が承認したことを示すものが古墳の築造でした。

シンデン古墳群は、この地にあった弥生時代後期後半から古墳時代初頭まで続いたムラを移動させて造墓されています。

古墳群の築造から約300年後にあたる古墳時代終末頃には、墳丘の一部を破壊しムラが形成されており、かつての権力者のいげん威厳は忘れ去られていたことが窺えます。



御経塚シンデン古墳群分布図



上空からみた前方後方墳（ST01）  
1987年(昭和62)



発掘調査風景 西より 1986年(昭和61)